

# 第68回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第68回日本体力医学会大会“健やかに生きる～康寧を求めて～”をテーマに下記の通り東京都千代田区において開催致します。全国からの多くの皆様のご参加を心からお待ち致しております。

なお、学会の最新情報は第68回大会ホームページ（<http://gakkai.co.jp/tairyoku68/>）をご覧ください。

1. テーマ：健やかに生きる～康寧を求めて～
2. 会期：平成25年9月21日(土)，22日(日)，23日(月・祝)
3. 会場：日本教育会館・学術総合センター
4. 大会長：栗原 敏（東京慈恵会医科大学・学長）
5. 副大会長：勝村 俊仁（東京医科大学）・鈴木 政登（東京慈恵会医科大学）
6. 大会事務局：東京慈恵会医科大学・分子生理学講座  
第68回日本体力医学会事務局  
事務局長・実行委員長 竹森 重（東京慈恵会医科大学）  
〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8  
TEL：03-5400-1200（内線2216）  
FAX：03-3431-3827  
E-mail：tairyoku68@jikei.ac.jp  
運営事務局：株式会社 学会サービス 担当 中本 明  
〒150-0002 東京都渋谷区鶯谷7-6-101  
TEL：03-3496-6590  
FAX：03-3496-2150  
E-mail：tairyoku68@gakkai.co.jp

## 7. 大会概要

高齢社会になった日本の現状を考え，“健やかに生きる～康寧を求めて～”を大会の主題にしました。大会プログラムでは、特に、(1)高齢者から競技選手にいたるまでの体力、(2)栄養、(3)疲労の問題を中心として取り上げたいと考えています。高齢社会の日本では、高齢者の運動能力が社会的な問題になっています。また、疾病予防のための運動に関する最新の知見は、国民の健康の維持・増進に直接貢献できます。さらに、人間が健康的な日常生活を送り疾病を予防するためには、栄養の問題が重要です。東京慈恵会医科大学の創立者、高木兼寛が明治時代、脚気の発症に食物の栄養素が関係していることを指摘し、これがビタミンB<sub>1</sub>発見の端緒となったことを踏まえて、栄養について考えます。さらに、身体的、精神的な疲労は近年一層社会の注目を集めています。疲労の原因物質が明らかになりつつある中で、新たな視点で疲労を考えてみたいと思います。

注1) シンポジウムの構成は第2報でお知らせ致します。

注2) 一般研究発表は口演です。

注3) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員でなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

## 国際セッションのご案内

日本体力医学会では ECSS (European College of Sports Science, ヨーロッパスポーツ科学学会) との間で、国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として、平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています。平成25年東京都で開催される第68回日本体力医学会大会では、日本、ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です。

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。詳細に関しては第2報でお知らせいたします。

## 第67回日本体力医学会大会(岐阜)を終えて



第67回日本体力医学会大会長  
放送大学岐阜学習センター所長 古田善伯

第67回日本体力医学会大会岐阜大会は2012年9月14日(金)から16日(日)の3日間の日程で岐阜市の長良川国際会議場と隣接する岐阜都ホテルで開催しました。本学会大会には約1,900名の研究者の参加があり、853演題という学会大会始まって以来の多数の研究発表が行われました。

本学会大会が無事終了できましたのは関係者並びにスタッフのおかげであり、皆様に感謝申し上げます。特に、松岡敏男教授(岐阜大学大学院医学系研究科・スポーツ医学分野)には事務局長を担当していただき大変な苦勞をかけたものと思います。先生の粘り強いご努力に対して心より感謝申し上げます。また、松岡研究室の渡邊恒夫先生と辛紹熙先生には学会事務局としての仕事を長期間にわたって担っていただきありがとうございました。

学会大会の開催に当たりまして古田肇・岐阜県知事、細江茂光・岐阜市長、小林博・岐阜県医師会会長をはじめ岐阜県の多くの関係各位に多大なご協力を賜りましたことに対して心よりお礼を申し上げます。

本学会大会では、下光輝一・現理事長と吉岡利忠・前理事長をはじめ、多くの理事の先生方に適切な指示ならびに学会でのご協力をいただき、大変ありがとうございました。また、新潟・千葉・山口の大会事務局の関係者の方々から大会運営に関して種々の資料、更には貴重なアドバイスをいただき、岐阜の運営に対し多くのことを取り入れさせていただきました。感謝申し上げます。

事務局の対応等に若干の手違いがあり、先生方にご迷惑をおかけしたことがあったようですが、皆様方がすべてを温かく受け入れていただき、期日までには原稿が揃い、大変スムーズに運営・実施できました。会員の皆様のご協力に感謝を申し上げます。

大会の運営に当たり、ご協力をいただきました関連団体、ご支援・ご講演をいただきました研究会、賛助団体、関連企業に対して熱く感謝を申し上げるとともにお礼申し上げます。

本学会大会は、「豊かなQOL社会を構築するために体力科学が担う役割－運動の持つ効果についての再認識－」をテーマに掲げて開催しました。テーマを十分に反映できたかどうかは分かりませんが、プログラムとしては特別講演に黒木登志夫先生にご依頼させていただきました。先生は前岐阜大学の学長であり、任期中に「健康・老化・寿命－人といのちの文化誌」を執筆され、日々の生活習慣に運動を位置づけられ、実践しておられるということをお願いしました。また、岐阜大学の二人の先生(森田啓之教授、塩入俊樹教授)にもご無理を言って講演を引き受けていただきました。現在の最新の運動の効果についてご教示いただきました。

教育講演については、大会本部より一方的にご依頼させていただきましたところ、講演を快く引き受けていただきましてありがとうございました。シンポジウムに関しましては多くの先生方に計画していただきありがとうございました。大変充実した学会内容になりました。

今回は千葉大会に習い、若手研究者の意欲を高めるために若手研究者奨励賞（39歳以下の研究者）を設けましたところ、応募総数の半数－426演題がエントリーしていただきました。その中から9演題が受賞されましたが、いずれも受賞にふさわしい立派な研究内容でした。審査の段階で、評価点数が殆ど同じくらいの優秀な論文が多くあり、将来の若手研究者の活躍が予想され心強く思いました。皆様方の今後の活躍に期待をしています。

本学会大会の1つの特徴として、研究者のコミュニケーションの場を提供しようとのコンセプトで、発表のない時間帯を設定し、コーヒープレイクを設けました。ケーキなどを出し（十分ではありませんでしたが）場を柔らかな雰囲気を作ることに心がけましたところ、あふれんばかりの人で、逆に皆様方に迷惑をかけたかもしれません。いい話し合いの場をもてたと思っています。

学会大会を運営する立場から、参加された皆様の活発なディスカッションや情報交換を目の当たりにし、2年間に及ぶ準備をして大会当日に望んだ大会スタッフ一同は本当に安堵感に満たされました。今回運営に参加したスタッフは、素晴らしいチームワークと行動力を発揮し、一致団結して分担された役割を十分に果たしてくれました。これは、私にとって望外の大きな成果であったと思っています。

本学会大会の参加人数は予想を上回る人数になったため、発表会場がやや手狭になったところもあり、皆様方にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。しかし、入りきれないほどの多くの人が熱く議論する様子を見ていて、学会会員のたくましさの本学会の今後の発展が見えてきたように思いました。

これからの日本体力医学会の益々の発展を祈念するとともに、次回、東京大会で多くの方々と再びお会いできることを楽しみにしております。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々のご活躍を祈念いたします。

# 日本体力医学会定款

## 一 総 則

第1条 本会は、日本体力医学会（The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine）と称する。

第2条 本会は、事務局を東京都（一般社団法人 学会支援機構内）に置く。

第3条 本会は、評議員会の議決を経て、地方会、支部を置くことができる。

## 二 目的及び事業

第4条 本会は、体力ならびにスポーツ医学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかることを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術講演会などの開催
- (2) 機関誌（体力科学）、名簿の刊行
- (3) FIMS（Federation Internationale de Medicine Sportive）など、本学会が関係する国際学会の行う事業への参加、協力
- (4) 体力医学の振興ならびに、普及、啓蒙
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会（以下、学会大会と称する）は、国民体育大会の開催地で行われる。

## 三 会 員

第7条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同する研究者、または団体で、評議員の推薦を必要とする。

第8条 本会の会員を次の5種とする。

- (1) 正会員
- (2) 名誉会員
- (3) 臨時会員
- (4) 賛助会員
- (5) 購読会員

第9条 正会員は、会費年額10,000円を納めるものとする。

正会員ならびに名誉会員は、学会および機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌・名簿の頒布を受けるものとする。

2. 名誉会員は、本会に功労ある会員で評議員会により推挙されたものとする。
3. 臨時会員は、参加費を納入し、学会大会に出席できる。ただし、業績の発表および討論への参加はできない。
4. 賛助会員は、会費年額一口（50,000円）以上を納入し、これを機関誌に公表する。
5. 購読会員は、会費年額12,000円を納入し、機関誌の頒布を受けるものとする。

第10条 会員の入退会、除名は次の各号による。

- (1) 入会しようとするものは、所定の入会届を提出しなければならない。
- (2) 退会しようとするものは、当年度までの会費を完納し、所定の退会届を提出する。
- (3) 会員が、会員としてふさわしくない行為があった場合は、総会の議決を経て除名される。
- (4) 3ヶ年間に会費を滞納した会員は退会とする。
- (5) 死亡、失踪宣言のあった場合は退会とする。

第11条 会費は会計年度内に納入し、既納の会費は返納しない。

## 四 役 員

第12条 本会には次の役員を置く。

理 事 20名以上25名以内（内、理事長1名、理事長推薦理事5名以内）

監 事 2名

評議員 若干名（内、評議員会長1名）

学会大会長 1名

第13条 役員を選任については次の各号による。

- (1) 理事長は、理事会において理事のうちから選任する。
- (2) 理事20名および監事は、評議員会において評議員のうちから選任する。ただし、理事長は、理事会の議決を経て5名を限度に総務、財務、編集等の業務を担当する理事を任免することができる。
- (3) 評議員会長は、評議員会において評議員から選任する。ただし、理事長が兼務することはできない。
- (4) 新評議員は、評議員の推薦により選考委員会の議を経て、評議員会で決定される。
- (5) 学会大会会長は、開催地の評議員、またはこれに準ずる学識経験者のうちから理事会が推薦し、評議員会の議決を経て総会の承認を受け決定される。
- (6) 役員を選出についての細則は別に定める。

第14条 役員に欠員が生じたときは、2ヶ月以内に補欠選挙を行う。ただし、会務に支障を生じない場合には、補欠選挙を行わない。

第15条 理事長は、本会の会務を総理し、本会を代表する。

第16条 理事は、理事会を組織し、この定款に定めるもののほか、本会の総会および評議員会の権限に属した事項以外の全ての事務、およびその他の規則に定める事項を決議し、執行する。

第17条 監事は、本会の財産、業務などの状況を監査する。

第18条 評議員会長は、評議員会を代表する。

第19条 評議員は、評議員会を組織し、この定款およびその他の規則に定める事項について議決するほか、理事会の諮問に応じ、理事長に対し必要と認める事項について助言、または要求をすることができる。

第20条 学会大会会長は、学会大会の開催に必要な一切の業務を行い、任期中必要に応じて理事会に出席する。

第21条 役員は、本会の役員としてふさわしくない行為があった場合、または本会の名誉を傷つけ、あるいは本会の目的・趣旨に反する行動があったとき、総会の議決によってこれを解任することができる。

第22条 学会大会会長を除く役員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、理事長については、連続3期までとする。

2. 学会大会会長の任期は、前回学会大会終了後、前学会大会会長より事務引継を受けた時に始まり、学会大会終了後、次回学会大会会長に事務引継を行って終了とする。
3. 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
4. 役員は、任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。
5. 役員は無給とする。

第23条 理事会または評議員会は、必要に応じて専門委員会を設け、委員を委嘱することができる。その委員会の代表は、必要に応じ理事会および評議員会に出席し専門事項の審議に参加する。

第24条 本会の事務を処理するため、職員を置くことができる。

2. 職員については、理事会の議決を経て理事長が任免する。
3. 職員は有給とする。

## 五 会 議

第25条 会議は、総会、評議員会および理事会とする。

第26条 総会は、毎年一回、学会大会開催中に理事長が招集する。

2. 臨時総会は、理事長または監事が必要と認めたとき、招集することができる。

第27条 理事長は、正会員現在数の5分の1以上または評議員会の決議により総会の招集を請求された場合、その請求があった日から1ヶ月以内に臨時総会を招集しなければならない。

第28条 総会の議長は理事長とする。

第29条 総会の招集は少なくとも10日前までに、その日時、場所を会員に通知しなければならない。

第30条 次の事項は総会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業計画および収支予算
  - (2) 事業報告および収支決算
  - (3) 財産目録
  - (4) その他、評議員会において必要と認めた事項
2. (1)の事項について、総会の招集が困難であるときは、理事会において決議することができる。この場合は、次の総会においてその承認を受けなければならない。

第31条 総会の議事は、別に定めがある場合を除き、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

第32条 評議員会は、毎年1回学会大会開催中に評議員会長が招集する。ただし、評議員会長が必要と認めるときは、これを招集することができる。

2. 評議員会長は、評議員現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に招集しなければならない。
3. 評議員会の招集については、第29条を準用する。

第33条 評議員会の議長は、評議員会長とする。

第34条 評議員会は、評議員の過半数以上をもって成立する。ただし、出席できない評議員はあらかじめ書面をもって意志を表示し、または書面をもって委任することができる。この場合、これを出席と見なす。

2. 評議員会の議事は、出席評議員の3分の2以上で決定する。

第35条 理事会は、理事長が招集する。

2. 理事長は、理事現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に理事会を招集しなければならない。
3. 理事会の議長は、理事長とする。
4. 理事会の運用については、第34条を準用する。

第36条 会議においては議事録を作成し、議長および指名された出席者2名以上が署名の上、これを保存する。

2. 会議において議決した事項は、会員に通知する。

## 六 資産および会計

第37条 本会の資産は次の通りとする。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄付金品
- (5) その他の収入

第38条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に理事長が編成し、理事会及び評議員会の議決ならびに総会の承認を受けなければならない。

2. 事業計画および収支予算を変更した場合、理事会の承認を受けなければならない。

第39条 本会の会計年度は毎年9月1日に始まり翌8月31日に終わる。

## 七 定款並びに細則の変更

第40条 この定款並びに別に定める施行細則の変更は、総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

## 八 解 散

第41条 本会の解散は、理事会、評議員会および総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経なければならない。

第42条 本会の解散に伴う残余財産は、理事会、評議員会、総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経て本会の目的と類似した団体に寄付するものとする。

## 九 補 則

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会、評議員会および総会の議決を経て別に定める。

## 附 則

1. この定款は、総会において議決された10日目から施行される。
2. 制定、改正年月日
 

(昭和24年7月2日制定)	(昭和44年10月30日改正)
(昭和59年9月21日改正)	(昭和62年10月7日改正)
(平成9年9月21日改正)	(平成12年9月20日改正)
(平成14年9月28日改正)	(平成17年9月23日改正)
(平成21年9月19日改正)	



# 体力科学投稿規定

改訂：2012（平成24）年11月9日

## I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

## II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

## III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

## IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは実験動物委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記する。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
  - 6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。
- H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。



## I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
 鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛  
 [電話FAX 共通 0235-22-3120] E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp

## V. 投稿規定

### A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。
  - 例1：長島<sup>1)</sup>によれば……………
  - 例2：手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………
  - 例3：馬ら<sup>3)</sup>によれば……………
4. 文献表の作り方
  - 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。
  - 2) 雑誌から直接引用する場合
    - 番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。
    - 例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響，体力科学，60：279-286, 2011.
    - 例2：手島貴範，角田直也：身長の相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達，体力科学，60：195-205, 2011.
    - 例3：馬 佳濛，柴田 愛，村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因，体力科学，60：185-193, 2011.
  - 3) 単行本から引用する場合
    - 番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。
    - 例：彼末一之，中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-，脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -，共立出版，東京，72-97, 2000.
  - 4) 訳本から引用する場合
    - 著者名，（訳者名），タイトル，出版社，地名，ページ，出版年の順に記す。
    - 例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳），運動処方指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版，南江堂，東京，57-108, 2011.



5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-11, 1999.

例2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006.

例3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ -, and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008.

例4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagosaka M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* Vol.1 (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり4頁以内, 図表は2点までとする。

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による。

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

D. 体力科学6号 (大会号) の抄録

1. 演題申し込みと同様, 学会大会のホームページ上で登録する。

2. 形式, 提出日等は大会要項に従う。原稿は一編840字以内とする。

※地方会, 大会抄録とも提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない。

E. 地方会の抄録

原稿は, 一編900字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す。

F. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editorの項では, 本誌に掲載された原著論文, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

附: 投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著: 独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので, 体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート: 原著論文より短い, 新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料: 適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ, 公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告 (症例報告を含む): 運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

## 論文の分類

### I 生理科学的研究

- I - 1 神経, 感覚
  - I - 1 - a 末梢神経
  - I - 1 - b 中枢神経
  - I - 1 - c 感 覚
  - I - 1 - d 運動制御
- I - 2 運動器
  - I - 2 - a 筋生理
  - I - 2 - b 筋生化学
  - I - 2 - c 骨, 関節
- I - 3 呼吸, 循環
  - I - 3 - a 呼 吸
  - I - 3 - b 心 臓
  - I - 3 - c 末梢循環
- I - 4 血液, 免疫
  - I - 4 - a 血 液
  - I - 4 - b 免 疫
- I - 5 体液, 内分泌
  - I - 5 - a 体液, 汗, 尿
  - I - 5 - b 内分泌
- I - 6 代 謝
  - I - 6 - a エネルギー代謝
  - I - 6 - b 糖代謝
  - I - 6 - c 蛋白代謝
  - I - 6 - d 脂質代謝
- I - 7 栄養, 消化
  - I - 7 - a 栄 養
  - I - 7 - b 消化, 吸収
- I - 8 形態, 体構成
- I - 9 加齢, 性差
  - I - 9 - a 発育発達
  - I - 9 - b 老 化
  - I - 9 - c 性 差
- I - 10 環 境
  - I - 10 - a 温湿度
  - I - 10 - b 気圧, 風圧
  - I - 10 - c 低酸素
  - I - 10 - d 高酸素

- I - 11 トレーニング
  - I - 11 - a 呼吸, 循環
  - I - 11 - b 代謝
  - I - 11 - c 筋骨格系他
  - I - 11 - d 体組成
  - I - 11 - e その他
- I - 12 生活, 健康
  - I - 12 - a 休養, 疲労
  - I - 12 - b 健康管理
  - I - 12 - c 疫 学
- I - 13 バイオメカニクス
  - I - 13 - a 力学的情報
  - I - 13 - b 動作分析
  - I - 13 - c その他
- I - 14 遺伝子
  - I - 14 - a 遺伝子多型
  - I - 14 - b 遺伝子制御
  - I - 14 - c その他
- I - 15 その他

### II スポーツ医学的研究

- II - 1 スポーツと疾患
  - II - 1 - a 呼吸器疾患
  - II - 1 - b 循環器疾患
  - II - 1 - c 代謝疾患
  - II - 1 - d スポーツ外傷
  - II - 1 - e スポーツ障害
  - II - 1 - f スポーツ歯科
  - II - 1 - g その他の疾患
- II - 2 リハビリテーション, 運動療法
  - II - 2 - a リハビリテーション
  - II - 2 - b 運動療法
- II - 3 薬物, ドーピング
- II - 4 スポーツ心理学
- II - 5 その他



## JPFSM : Instructions for Authors

October 11, 2011

*An Official Journal of the Japanese Society of  
Physical Fitness and Sports Medicine*

### The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. For non-native English-speaking authors, please note that only manuscripts that have already been checked and edited by a native English-speaking person with sufficient scientific knowledge will be accepted. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

#### 1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes six types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 or less printed journal pages.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research performed by the authors and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 or less printed pages.
- 3) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 or less printed pages.
- 4) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 or less printed pages.
- 5) **Letter to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors reply are limited to a printed page each.
- 6) **Proceedings:** The Proceedings on the Annual Meeting of this Society will be published in abstract form.

## 2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) Please submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.

## 3. SUBMISSION GUIDELINES

Manuscripts should be sent as a PDF file to: Editorial Office of Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai Oyodogawa, Tsuruoka, Yamagata 997-0854 Japan.

**TEL: +81-235-22-3120, FAX: +81-235-22-3120**

**E-mail: [hj-tairyoku@turuin.co.jp](mailto:hj-tairyoku@turuin.co.jp)**

## 4. MANUSCRIPT PREPARATION

### 1) Cover Letter

The “**Required Submission Form**” should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author’s name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author’s name and address should be written in Japanese as well as English.

Please insert supporting documents such as a copy of the approval letter from the ethics committee, certificate of editing by a qualified native speaker, etc.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

### 2) Manuscript

A manuscript, including all figures and tables, should be in one PDF file. Please use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout. One printed copy of the paper and illustrations should be submitted.

**(1) Title page** The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). Please indicate the corresponding author’s e-mail address in the footnote. An asterisk(\*) should be added to the right of the corresponding author’s name.

**(2) Abstract and Keywords** Page 2 should contain a Abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the Abstract and author(s) names in Japanese.

**(3) Main text** The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgements, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, you will requested to formally submit your paper in electronic format.

## 5. MANUSCRIPT FORM

**1) Affiliations** When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript *1, 2, 3...* placed after each author’s name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

<sup>1</sup>Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima,



Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>2</sup>Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

<sup>3</sup>Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

<sup>4</sup>Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan

**2) Abbreviations** Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Please limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD<sub>50</sub>, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

**3) Units** The following units should be used: length (m, cm, mm,  $\mu$ m, nm), mass (kg, g, mg,  $\mu$ g, ng, pg, mol, mmol,  $\mu$ mol, nmol), volume (l, ml,  $\mu$ l), time (s, min, h, d), temperature ( $^{\circ}$ C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml,  $\mu$ g/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

**4) Nomenclature** The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

**5) Tables** Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 file numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend etc. under the table.

**6) Figures** Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 file and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading "Figure Legend". If the manuscript is accepted, the author will be required to send electronic file for the figures.

Drawings should be done in black ink on white paper. Although drawings prepared with the aid of software packages as a high-quality print-out are acceptable, those prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should be marked with the first author's name and number in pencil in the lower right corner of each sheet. Legend should be typed in text form.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

**7) References** References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text.

Examples of references are as follows:

- 1) Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1101.
- 2) Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247.
- 3) Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K and Imaizumi K. 2008. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ -, and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400.
- 4) Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagosaka M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.
- 5) Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (*in Japanese*).



## 6. ETHICS

- 1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publicatiobs/10policies.b3/>) and/or the ethical standards for clinical research (<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html#4>), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese government's "Ethical Standards for Human Genome and Genetic Analysis Research" ([http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate ethics committee of an institution will be accepted for publication. Finally, please clearly state in the manuscript that the study was performed according to these guidelines and attach to the cover letter a scanned certificate from the ethics committee.
- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. Finally, please state clearly within the manuscript which guidelines were followed and that the study was indeed conducted in accordance with the guidelines.

## 7. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

## 8. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	3,000	15,000
Short Communication	3,000	15,000
Review (submitted)	3,000	15,000
Short Review (submitted)	3,000	15,000
Letter to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

## 9. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

### Categories covered

1 Nervous and sensory system	2 Motor control	3 Musculoskeletal system
4 Respiratory and circulatory system	5 Hematology and immunology	6 Humor and endocrinology
7 Metabolism	8 Nutrition and digestion	9 Morphology and body composition
10 Aging and gender difference	11 Environmental physiology	12 Exercise-training
13 Lifestyle and health	14 Biomechanics	15 Genes and gene regulation
16 Sports Medicine and diseases	17 Rehabilitation and exercise therapy	18 Drug and doping
19 Sports psychology	20 Miscellaneous	

## ご 案 内

### 〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	☎03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,600円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は HPより <a href="http://www.jspfsm.umin.ne.jp/">http://www.jspfsm.umin.ne.jp/</a>	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp	0235(22)3120 電話, FAX 共通	体力科学投稿規定参照の こと (毎巻6号に掲載及びHP 参照)
英文誌の投稿は E-mailにて hj-tairyoku@turui.co.jp	「JPFISM」編集事務局	〃	〃	英文誌投稿規定はHP参 照のこと

### 〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒069-8511 北海道江別市文京台23番地  
北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科  
水野 眞佐夫・小田 史郎  
TEL: 011(387)3688 (FAX共通)  
E-mail: os@hokusho-u.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野  
藤本 繁夫  
TEL: 06(6645)3790 FAX: 06(6646)6067  
E-mail: sfujimoto@med.osaka-cu.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1  
福島大学人間発達文化学類  
安田 俊広 (事務局長)  
TEL: 024(548)8209 (FAX共通)  
E-mail: yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 中国・四国  
地 方 会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288  
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科  
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)  
TEL: 086(462)1111 (内線 54041, 54835)  
FAX: 086(464)1109  
E-mail: jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp  
URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/sports/jspfsm-chushi/>
- 関東地方会 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1  
聖マリアンナ医科大学生理学教室  
吉岡 利忠・小林 康孝(帝京平成大学)  
TEL: 044(977)3915 (FAX共通)
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1  
金沢医科大学生命科学・体育  
田村 暢熙 (事務局長: 中川 明彦)  
TEL: 076(286)2211 FAX: 076(218)8090  
E-mail: tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12  
愛知学院大学心身科学部健康科学科  
佐藤 祐造・長崎 大  
TEL: 0561(73)1111 FAX: 0561(73)1142  
E-mail: satoy@dpc.agu.ac.jp

### 〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE  
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:  
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA  
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports  
Medicine, 319 Longwood Avenue,  
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA  
Tel: +617 355 6970  
Fax: +617 730 0694  
Email: michelilyle@aol.com  
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu



## 日本体力医学会定例理事会（2012年7月）議事録

日 時：2012年7月20日（金）午後5時30分～8時00分

場 所：東京八重洲ホール411

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、碓井外幸、大野 誠、小野寺昇、  
勝村俊仁、川久保清、川原 貴、栗原 敏、  
坂本静男、定本朋子、下村吉治、鈴木政登、  
竹森 重、田中喜代次、田畑 泉、浜岡隆文、  
山内秀樹、吉岡利忠（各理事）、  
小林康孝（監事）、  
古田善伯（第67回大会長・岐阜）、  
中村拓雄（司法書士）

欠席者：荒尾 孝、武政 徹、田中宏暁、永富良一、  
西平賀昭、福永哲夫、福林 徹（各理事）、  
能勢 博（監事）

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として大野、勝村両理事が指名された。

#### 2. 定款（案）・細則（案）について（小野寺総務委員長）

前回理事会に引き続きで議論が行われ、代議員制を採用した場合の定款（案）・細則（案）と、非代議員制を採用した場合の定款（案）・細則（案）の資料を見比べての審議を行った。本理事会では結論が出なかったため、9月の理事会で代議員制を選択するか、非代議員制を選択するかを決定するという方向性が示された。その後総会で案を提示し、期間を限定して会員からのパブリックコメントを募集し、その意見を基に再度理事会で検討し、来年の総会で決定するというタイムテーブルで行くことが了承された。

#### 3. 平成24年度決算見込みについて（勝村財務委員長）

資料に基づき、平成24年度決算見込みについて報告がなされ、正式な決算は9月の理事会で報告予定である旨が説明された。

#### 4. 平成25年度予算案について（勝村財務委員長）

別紙資料により平成25年度予算案が提示された。学会誌の欧文誌が発行された影響により学会誌発行費が約1,000万円増える見込みという旨の説明がなされた。また、今後の予算措置について継続して検討を行うことが確認され、最終的な予算案は次回理事会へ提出することとした。その他、各種委員長から、各種委員会活動費を増額してほしい旨の意見が出された。また、現在、旅費規定が定まっていないため、今後は総務委員会を中心に旅費規定を検討する旨の報告がなされた。

#### 5. 各種委員会規定について（小野寺総務委員長）

各種委員長より委員会規定の提出があった旨の報告がなされた。プロジェクト研究委員会規定については規定と内規で分ける形とすること、また編集委員会規

定の第2条（3）の文面の学会賞に関する項目は削除して修正をする旨の決定がなされた。各種委員会規定については次回理事会までに各理事で確認を行い意見がある場合には申し出ていただきたいとの依頼がなされた。

#### 6. 将来構想検討委員会委員の追加について

（下村将来構想検討委員長）

5月の理事会で内諾を得られていなかったため、以下6名を追加の委員として承認いただきたいとの依頼がなされ、理事会として承認された。

永富 良一（東北大学大学院 医工学研究科（理事））

征矢 英昭（筑波大学 体育科学系）

川上 泰雄（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

山内 秀樹（東京慈恵会医科大学 分子生理学講座 体力医学研究室（理事））

村瀬 訓生（東京医科大学 健康増進スポーツ医学講座）

村岡 慈歩（明星大学 教育学部教育学科保健体育コース）

#### 7. 学会賞について（定本学会賞選考委員長）

学会賞選考委員会からの提出資料に基づき、審査経過ならびに審査結果が報告された。6月18日に開催された委員会において、下記2編の論文を学会賞に選考したことが報告され、承認された。

◎「地域在住高齢者のウォーキング実践と複数回または傷害を伴う転倒の関連 ～転倒リスク保有数による差異～」(60巻2号)

大久保善郎・清野 諭・藪下典子・松尾知明・大須賀洋祐・金 美芝・鄭 松伊・根本みゆき・大月直美・田中喜代次

◎「歩行路の傾斜、歩行速度、および担荷重量との関連からみた登山時の生理的負担度の体系的な評価 ～トレッドミルでのシミュレーション歩行による検討～」(60巻3号)

萩原正大・山本正嘉

#### 8. 健康科学アドバイザー継続申請者について

（碓井称号委員長）

称号委員会からの提出資料に基づき、アドバイザー継続申請者13名（継続対象者は23名）の申請書類一式を確認・審査し、委員会として了解したことが報告され、継続が承認された。

#### 9. プロジェクト研究について

（田中喜代次プロジェクト研究委員長）

配布資料に基づき、これまでのプロジェクト研究への公募状況について報告がなされ、最終的に4件の応募があったとの報告がなされた。応募があった4件を委員会において審査した結果、下記の2つの研究グループを採択したいとの提案がなされ、理事会として承認した。

採択プロジェクト研究：

「質問紙で評価した身体活動ガイドライン達成者の活

動レベルを加速度計で評価する」

研究代表者：中田由夫（筑波大学医学医療系／准教授）

「内臓脂肪体積に基づく内臓脂肪型肥満の新基準策定」

研究代表者：真田樹義（立命館大学スポーツ健康科学部／教授）

## 10. 会員名簿について（小野寺総務委員長）

本学会ホームページの運営・管理を担当している鶴岡印刷株式会社に会員名簿管理をWEB上でできないかを確認したところ、現状セキュリティーの問題が解決できないため難しいとの回答があったため、今回作成する名簿は過去のものと同様に冊子形式としたい旨の提案がなされ、理事会として承認された。前回の会員名簿では情報が少なくなってしまうため、今回は会員情報に係るアンケートの実施方法について見直しを行う予定である旨の報告がなされた。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 編集委員会（鈴木委員長）

現在J-STAGE上で体力科学が全て閲覧可能であると謳っているが、1冊分の体力科学（サプリメント）が載っていない事実が発覚した旨の報告がなされた。すぐにオンライン上に載せる手続きを取りたいが、J-STAGEに載せる費用（約27万円）が掛かってしまうため、学会からこの費用を出してほしい旨の提案がなされ、理事会として承認された。

##### 2) 倫理委員会（坂本委員長）

倫理規定に倫理審査についての記載がないため、本委員会の任期中に倫理審査に係る項目を作成する予定である旨の報告がなされた。

##### 3) 学術委員会

###### ・スポーツ医学研修会実行委員会（山内委員長）

7月6日・7日に慈恵医大で開催した基礎コースの概要、受講者数15名、懇親会7名の参加があった旨の報告がなされた。また、応用コースは8月3日・4日に、修了試験は8月5日に行う予定である旨の報告がなされた。

##### 4) ガイドライン委員会（川久保委員長）

第1回の委員会が7月23日に実施される旨の報告がなされた。前回の理事会で話題に上がった学生実習のガイドラインの作成の件についても議論を行う旨の報告がなされた。

##### 5) 渉外委員会（勝村理事）

###### I) 今期の活動方針について

別紙により活動方針が報告され、承認された。これまでよりも国内外の関係する学術団体との交流をもっと活発にしていく予定である旨の報告がなされた。同時にこれまでやってきた活動がどのくらいの効果があったのか再検討をし、改善すべきところは改善していく予定である旨の報告がなされた。

##### II) ECSS（ヨーロッパスポーツ科学会）

7月4日～7月7日の日程で第17回ECSS学術大会がブルージュ（ベルギー）で開催され、7月4日の日本体力医学会シンポジウムで3題の口頭発表が行われた。

また、岐阜大会の9月15日15:20～国際セッションが予定されており、座長までは決定済みだが、ECSSからの演題の連絡がまだ来ていないので催促している状況である旨の報告がなされた。

##### III) AFSM（アジアスポーツ医学会）

坂本理事が理事に、勝村理事が地域の副会長に選出された旨の報告がなされた。

## 2. 第67回（岐阜）大会の進捗状況（古田第67回大会長）

配布資料により以下の報告がなされた。

### 1) 演題登録／5月31日メチ

申し込み演題数 855演題

口頭発表 284演題

ポスター発表 571演題

### 2) 懇親会の開催（予定）

日 時：9月15日（土）18：20～20：00

参加人数：150名程度を予定

会 費：1,000円（予定）

大会ホームページで広報し、参加者を募集する予定である旨の報告がなされた。

### 3) 持久走大会

持久走後は近くの温泉（無料）も用意している旨の報告がなされた。

### 4) コーヒーブレイク

コーヒーブレイクを設けた旨の報告がなされた。

## 3. 第68回（東京）大会の進捗状況

（竹森第68回大会実行委員長）

### 1) 主題について

“健やかに生きる”を大会の主題として進めている旨の報告がなされた。

### 2) プログラムについて

・体力

・栄養

・疲労

以上3つをプログラムの柱にする予定だという旨の報告がなされた。

### 3) 会期・会場について

会期：平成25年9月21日（土）～23日（月/祝日）

会場：日本教育会館、学術総合センター

### 4) 広報について

HPは10月には開設できるように準備している旨の報告がなされた。

## 4. その他

### 1) 名誉会員の故酒井敏夫先生を偲ぶ会の開催について（栗原理事）

本学会名誉会員の酒井敏夫先生のご逝去（2012年5月23日）に伴い、7月13日に「酒井先生を偲ぶ会」が東京會館で開催された旨の報告がなされた。また、理事会・総会で黙とうを行う予定である旨の報告がなされた。

## 日本体力医学会定例理事会（2012年9月）議事録

日 時：2012年9月13日（木）午後6時00分～7時30分

場 所：長良川国際会議場 第2会議室

議 長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一，荒尾 孝，碓井外幸，小野寺昇，  
勝村俊仁，川原 貴，栗原 敏，坂本静男，  
定本朋子，下村吉治，鈴木政登，武政 徹，  
竹森 重，田中宏暁，田畑 泉，永富良一，  
西平賀昭，福永哲夫，山内秀樹，  
吉岡利忠各理事，小林康孝監事，  
古田善伯（第67回大会長・岐阜）

欠席者：大野 誠，川久保清，田中喜代次，浜岡隆文，  
福林 徹各理事，能勢 博監事

はじめに古田大会長より挨拶をいただいた。

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として川原、栗原両理事が指名された。

#### 2. 2012年度庶務報告に関する件（小野寺総務委員長）

2012年8月31日現在、会員総数5,186名、新入会員364名、退会者365名（内自然退会173名）であるとの報告がなされた。また、3年以上会費未納者リストが提示され、評議員を除く3年以上会費未納者を自然退会とすることが承認された（3年以上会費未納者の評議員には再度督促を行うこととした）。

#### 3. 2012年度会計（決算）に関する件（勝村財務委員長）

収入の部 予算に比べて論文掲載料等収入が約47万円増収、雑収入が約118万円増収（スポーツ医学研修会実行委員会管理分過年度資金を本会計へ繰り入れたため）となり、年度内収入は59,405,317円であった。

支出の部 事業費が欧文誌発行の影響により予算より約25万円超過し、管理費が役員交代に係る選挙会議費・理事増員に伴う旅費交通費の増加のため予算より約91万円超過し、その結果、全体の支出が予算額より約97万円超過して、年度内支出としては66,851,493円であった。

以上により当年度収支としては約744万円の赤字となり、次年度繰越金は62,497,795円になったとの報告があった。引き続き小林監事より監査報告が行われ、2012年度決算が承認された。

#### 4. 2013年度会計（予算案）に関する件（勝村財務委員長）

2013年度予算案が提示され、前年度予算と大きく異なる点として、下記の項目について説明が行われた。

- ・研修会収入…第23回スポーツ医学研修会の参加者数をもとに試算している旨が説明された。
- ・名簿作成積立金取崩収入及び選挙積立金取崩収入…平成25年度は名簿作成及び役員選挙を行わない年で

あるため、それぞれ積立金の取崩は行わない旨が説明された。

- ・学会誌発行費/印刷費…欧文誌が昨年よりも2号分多く発行されるため増額した旨の説明がされた。
- ・投稿管理費…HP管理費より科目名称を変更した旨の説明がされた。

名簿に関して次回作成時は冊子形式で行わない方針が前回理事会で決定しているため、勘定科目の「名簿作成積立預金繰入」を「名簿等作成積立預金繰入」と科目変更を行うことが提案され、承認された。

また、それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し、2013年度の当期収支としては1,287万円の赤字となる旨の説明があり、審議の結果、2013年度予算が承認された（収入合計50,085,000円、支出合計62,963,500円の予定）。次年度以降は、編集経費をできるだけ減らし健全な収支となるよう理事会で検討したい旨、勝村委員長よりコメントがあった。

#### 5. 評議員推薦に関する件（吉岡委員長）

評議員選考委員会において申請者22名に対しての資格審査を行い、その結果22名全員が資格を有すると認めた旨の報告があり、2012年度評議員候補者として22名を評議員会に推薦することが承認された。

#### 6. 第23回スポーツ医学研修会修了試験結果について（山内スポーツ医学研修会実行委員長）

研修会を受講した内の9名が8月5日に修了試験（試験問題50問）を受け、9名全員が合格した旨と試験の概要について報告がなされ、承認された。

#### 7. 2012年度健康科学アドバイザー新規称号認定者について（碓井称号委員長）

健康科学アドバイザーの新規申請者6名の氏名リストが提示され、承認された。

#### 8. 各種委員会規程について

##### （鈴木編集委員長，武政広報委員長）

##### 1) 編集委員会規程

第4条第2項の原著・ノート・資料の定義が編集委員会内で定まっていなかったため、本理事会での承認を見送り、次回理事会に再提出する旨の報告がなされた。

##### 2) 広報委員会規程

項番号の振り方が誤っていたので、その部分を修正することを前提に、承認とした。

#### 9. 表彰制度の提案について（鈴木編集委員長）

現在ある学会賞に加えて、若手（40歳以下）向けの学会賞とJPFMS誌が発行されたことによるJPFMS誌の学会賞を表彰に加えてはどうかという提案があった。本理事会では話がまとまらなかったため、一度総務委員会で案件を預かり、整理後に再度審議を行うこととした。

#### 10. 定款（案）・細則（案）について（小野寺総務委員長）



前回の7月の理事会に引き続き法人化に向けて、代議員制の定款(案)を進めるか、非代議員制(評議員制)で進めるかの議論が行われた。現在の約5,000名の会員を誇る学会まで大きくしてきたのは紛れもなく、現在の評議員の努力の成果であるということ尊重し、理事会として非代議員制(評議員制)を進めていくということを総会で説明し、その後会員のパブリックコメントを募り、最終的に来年5月理事会で決定、来年9月の総会で承認を取るという方向性が示された。

#### 11. 日本スポーツ体育健康科学学術連合からの報告に関する件(小野寺総務委員長)

平成24年8月23日に日本スポーツ体育健康科学学術連合(以下、学術連合)の第1回運営委員会が開催され、新規に学術連合のHPが作成され現在閲覧可能である旨、学術連合の政策提言委員会メンバーに日本体力医学会が選出され、学術連合本体の「プロジェクト」企画を検討していくことが承認された旨の報告がなされた。

#### 【報告事項】

##### 1. 各種委員会報告

###### 1) 編集委員会(鈴木委員長)

- ・JPFSM(欧文誌)が9月3日からJ-STAGEで公開済みであるとの報告があった。
- ・JPFSM投稿状況について、1号は23編、2号は21編であり、オリジナル論文は国内から17編で採択されたのは5編であり、外国からの17編投稿があったが1件も採択されていなかったこと、また、和文の投稿数が減っているが、和文英文で投稿件数は13件増えたとの報告があった。
- ・学会誌の要・不要アンケートが会員の約4,000名から未回答の状況であり、現在未回答の会員にも学会誌を送付している状況である。要・不要が分からずに送付しているため予算が膨らんでおり、

再度アンケートを実施し、もし未回答の場合は学会誌を送付しないという旨を総会でアナウンスし、会員の皆様の了承を得られた場合「アンケート未回答の会員には学会誌を送付しないことにする」ことが承認された。

###### 2) ガイドライン検討委員会(下光理事長)

- ・学会員に対してガイドラインに関するアンケートを明日の総会で取る旨の報告がなされた。

###### 3) 渉外委員会(永富委員長)

- ・国外の学会との交流を深めているが、国内学会との連携を深めていく方向であることが示された。今後の活動として特に臨床系でかつ生活習慣病系に関わる学会との交流を深めていく旨の報告がなされた。

###### 4) 学術委員会(碓井委員長)

- ・2011年版称号試験過去問題集が完売し、新たに2012年版称号試験過去問題集(過去8箇年分)を作成した旨の報告がなされた。

###### 5) プログラム委員会(荒尾委員長)

- ・将来構想検討委員会との連携を図り、他の先生方の意見を伺いながら大会プログラムにどのように反映させていくか今後検討していく旨の報告がなされた。

##### 2. 第68回大会(東京)について

(栗原第68回大会長及び竹森第68回大会事務局長)

大会の準備状況等についての報告があった。

会期：2013年9月21日(土)～23日(月/祝日)

会場：日本教育会館、学術総合センター

##### 3. 第69回大会(長崎)について(小野寺総務委員長)

未だ総務委員会として接触していない旨の報告がなされた。

出来るだけ早い段階で大会長を決め、理事会に提案することになった。

## 日本体力医学会評議員会・総会(2012年9月)議事録

日時：2012年9月15日(土)午後2時00分～3時00分

場所：長良川国際会議場 A会場(メイン会場 さらさ～ら)

総会議長：下光輝一 理事長

評議員会議長：福永哲夫 評議員会長

議事に先立ち、下記の項目について報告・承認が行われた。

- ・古田大会長より、挨拶と第67回大会概要の報告が行われた。
- ・下光理事長より、理事長変更による新体制による今季の活動方針が示された。
- ・評議員会は委任状を含む参加者数が評議員の半数を超えており、成立することが確認された。

#### 【審議事項】

##### 1. 2012年度庶務報告に関する件(小野寺総務委員長)

###### 1) 会員総数5,186名(2012年8月31日現在)

名誉会員 34名

正会員 4,950名

外国会員 23名

購読会員 173団体

賛助会員 6団体

(財)石本記念デサントスポーツ科学振興財団、

鶴岡印刷(株)、フクダ電子(株)、(株)ブルボン、

(財)明治安田厚生事業団、大正製薬(株)

###### 2) 役員数

評議員 523名

(内)理事 25名

監事 2名

###### 3) 年度内入退会状況

新入会員 364名

退会者 365名

(内)申込者 192名

自然退会 173名

西村 一樹 野瀬 由佳 八田 秀雄  
福 典之 舟崎 裕記 麓 正樹  
松本 希 水野眞佐夫 安田 義  
山元 健太

## 2. 2012年度会計(決算)に関する件(勝村財務委員長)

以下のとおり2012年度決算についての報告がなされた。

収入の部 予算に比べて論文掲載料等収入が約47万円増収、雑収入が約118万円増収(スポーツ医学研修会実行委員会管理分過年度資金を本会計へ繰り入れたため)となり、年度内収入は59,405,317円であった。

支出の部 事業費が欧文誌発行の影響により予算より約25万円超過し、管理費が役員交代に係る選挙会議費・理事増員に伴う旅費交通費の増加のため予算より約91万円超過し、その結果、全体の支出が予算額より約97万円超過し、年度内支出としては66,851,493円であった。

以上により当年度収支としては約744万円の赤字となり、次年度繰越金は62,497,795円になったとの報告があった。引き続き能勢監事より監査報告が行われ、2012年度決算が承認された。

## 3. 2013年度会計(予算案)に関する件

(勝村財務委員長)

2013年度予算案が提示され、前年度予算と大きく異なる点として、下記の項目について説明が行われた。

- ・研修会収入…第23回スポーツ医学研修会の参加者数をもとに試算している旨が説明された。
- ・名簿作成積立金取崩収入及び選挙積立金取崩収入…平成25年度は名簿作成及び役員選挙を行わない年であるため、それぞれ積立金の取崩は行わない旨が説明された。
- ・学会誌発行費/印刷費…欧文誌が昨年よりも2号分多く発行されるため増額した旨の説明がされた。
- ・投稿管理費…HP管理費より科目名称を変更した旨の説明がされた。

名簿に関して次回作成時は冊子形式で行わないため、勘定科目の「名簿作成積立預金繰入」を「名簿等作成積立預金繰入」と科目変更を行うことが承認された。

また、それ以外の項目についてはほぼ前年度通り計上し、2013年度の当期収支としては約1,288万円の赤字となる予定である旨が説明され、収入合計50,085,000円、支出合計62,963,500円で承認された。次年度以降は、編集経費をできるだけ減らし健全な収支となるよう理事会で検討したい旨、勝村委員長よりコメントがあった。

## 4. 評議員推薦に関する件(福永評議員会長)

2012年度評議員推薦に関しては22名の推薦があり、評議員選考委員会で評議員選考規定に従って審査を行い、その結果22名全員について評議員資格を有するとの報告に基づき、承認された。

新評議員(22名)

天岡 寛	飯田 智行	岡本 孝信
奥津 光晴	木田 哲夫	北岡 和義
北村 裕美	佐藤 真治	椎葉 大輔
杉浦 春雄	関 和俊	中原 英博

## 5. 定款改正(案)について(小野寺総務委員長)

法人化移行に伴い、代議員制を採用した定款(案)と非代議員制を採用した定款(案)の2つの定款が紹介され、理事会として定款(案)(非代議員制)を進めていきたい旨の提案がされた。会員の皆様に対して、定款(案)に関する意見があれば事務局まで連絡をいただく旨、依頼がなされた。また、今後の進め方として、会員の皆様からパブリックコメントを募り、2013年5月の理事会でどちらの定款(案)を進めるかを決定し、2013年9月の総会で改正後の定款(案)の承認をいただくというスケジュールについて説明がなされ、承認された。

## 【報告事項】

### 1. 各種委員会報告

#### 1) 総務委員会(小野寺委員長)

- ・長崎大会開催に向けて現在準備中であり、来年の総会で長崎大会の大会長を推薦する予定である旨の報告がなされた。

#### 2) 編集委員会(鈴木委員長)

- ・体力科学の投稿状況として2011年9月1日～2012年8月31日までの期間で投稿は80編、掲載された論文56編である旨の報告がされた。また、JPFISMの投稿状況として2011年10月11日～2012年8月31日までの期間で投稿34編(オリジナル論文)、掲載された論文4編である旨の報告がされた。体力科学・JPFISM合わせた投稿状況は昨年よりも13件多かった旨の報告がされた。
- ・平成24年度のJPFISMの投稿は、オンライン投稿システムが未稼働であったため、編集事務局の鶴岡印刷に添付書類として送るシステムであったが、平成25年度からはオンライン投稿システムが稼働する旨の説明がされた。
- ・JPFISMの閲覧が9月3日からJ-STAGEで閲覧可能である旨の報告がされた。
- ・インパクトファクター(トムソン・ロイター社ウェブ・オブ・サイエンスに申込)2014年～2015年の間に採用された論文を元にしてインパクトファクターを算定する予定である旨、説明がされた。
- ・予算関連: JPFISMの発行について平成24年度は2号発行、平成25年度は4号発行予定であるため、予算が増額となった旨の報告がされた。
- ・体力科学&JPFISMの要・不要のアンケートを以前HPと学会誌で行ったが、約4,000名の会員から回答が得られなかったため、再度アンケートを行いたいとの提案がなされた。再アンケートを取った結果、未回答が続いた会員の方に対しては学会誌を発送しない旨、総会で承認された。

#### 3) 学術委員会

##### ①スポーツ医学研修会実行委員会(碓井学術委員長)

今年(第23回)の研修会について下記のとおり報告がされた。

基礎コース 7月6日(金)・7日(土) 受講者13名  
 応用コース 8月3日(金)・4日(土) 受講者15名  
 修了試験 8月5日(日) 申込者9名

また、次年度もスポーツ医学研修会を開催する方向で進めている旨の報告がされた。

#### ②称号委員会(碓井学術委員長)

・称号試験過去問題集2011年版が完売し、新たに称号試験過去問題集2012年版を作成し、本学会期間中に学会事務局で販売している旨の報告がされた。

・2012年度健康科学アドバイザー称号認定者(下記)の報告がされた。

・新規3名(第22回研修会)

蕪木 智子 西山 正洋 山本 忠芳

・新規6名(第23回研修会)

上村 浩一 鬼村 征和 金澤 利彦  
 佐藤 精芳 對東 俊介 三浦 真弘

・継続14名

内山 雅文 片山 敬章 勝木 保夫  
 菊池 武彦 後藤 英太 白戸 真紀  
 中川 幸洋 永田 瑞穂 西山十美枝  
 沼尾 成晴 松尾絵梨子 松原 茂  
 丸田 巖 水谷 睦子

#### ③プロジェクト研究委員会(碓井学術委員長)

平成24年度のプロジェクト研究は以下の2件が採択された旨の報告がされた。また、平成25年度のプロジェクト研究の募集を行うかどうかは現在審議中である旨の報告がされた。

採択プロジェクト研究：

「質問紙で評価した身体活動ガイドライン達成者の活動レベルを加速度計で評価する」

研究代表者：中田由夫(筑波大学医学医療系/准教授)  
 「内臓脂肪体積に基づく内臓脂肪型肥満の新基準策定」  
 研究代表者：真田樹義(立命館大学スポーツ健康科学部/教授)

#### 4) 倫理委員会(坂本委員長)

・倫理審査に関する規定が無い場合、検討していく旨の報告がされた。

#### 5) 渉外委員会(永富委員長)

・活動方針として国外は今後も継続するが、国内との連携を強化、具体的に他学会との合同シンポジウム(主催は問わず)を積極的に行いたい旨、報告がされた。

#### 6) 将来構想検討委員会(下村委員長)

・活動方針として「研究の促進」「研究成果の社会への発信」「学会の機能の改善」という3つの柱を軸に方針を練って、理事会に提案していく旨、報告がされた。

#### 7) ガイドライン検討委員会(川久保委員長)

・新しくできた委員会であり、広く先生方に知っていただきたい旨、紹介がされた。

・配布資料のアンケートは「本学会のガイドラインとしてどのようなものを最優先に取り組みべきか？」を会員の皆様に問いかけを行うのが目的であり、そのアンケート結果に基づき、本委員会は活動を進めていく旨、報告がされた。

## 2. 第68回日本体力医学会大会(東京)の進捗状況(栗原大会長、竹森事務局長)

第68回大会は2013年9月21日(土)~23日(月)に、日本教育会館及び学術総合センター(共に千代田区)で開催予定である旨、概要等の報告があった。

## 2012年度第2回日本体力医学会編集委員会議事録

日 時：平成24年9月13日(木) 16:30~18:00

場 所：長良川国際会議場3階 第一会議室

出席者：鈴木政登、今泉和彦、井澤鉄也、宇高 潤、勝川史憲、後藤勝正、小宮山伴与志、坂本静男、下村吉治、竹森 重、成田和穂、西牟田守、八田秀雄、宮地元彦、山内秀樹、和気秀文(編集事務局、白幡裕子、佐藤信之)

欠席者：石井直方、石原昭彦、井上 茂、内田 直、川上泰雄、木崎節子、新開省二、鳥居 俊、内藤久士、中澤公孝、西保 岳、能勢 博、藤井宣晴、藤本繁夫、水野眞佐夫

### 【審議事項および報告事項】

1. 会議に先立ち、宇高 潤、小宮山伴与志、山内秀樹および和気秀文の各委員より自己紹介が行われた。
2. 第1回編集委員会の議事録(案)が逐次説明され、承認された。
3. 和文誌の投稿原稿種類、1) 原著論文、2) ノート、3) 資料についての定義が鈴木委員長より提案された。その後、種々討論された結果、2) ノートの定義について

では再検討することとし、次回までに原案を出すことで承認された。

4. 編集事務局より和文誌・英文誌の投稿状況と発行状況が報告され、10月10日にJPFMS誌VOL.1-3が発送される予定との報告があった。また、J-STAGEにおいてJPFMS誌VOL.1-1の公開が予定より早めの8月22日に実施された旨の報告があった。引き続き、JPFMS誌VOL.1-2の公開が9月11日に行われた旨の報告があった。体力科学第61巻4号については、J-STAGE上に8月28日に公開されたとの報告があった。
5. 和文誌・英文誌への『投稿の勧め』の文章を体力科学誌と本学会のHPに掲載するため、鈴木編集委員長、今泉副委員長および編集事務局でその文章を作成することで了承された。
6. 編集委員会規程(案)に若干のタイプミスがあったため、今回の会議に再提案することで了承された。
7. 鈴木委員長より本学会の和文誌と英文誌の表彰制度(案)が提案され、種々議論がなされた。その結果、本表彰制度の原案を編集委員会の総意として理事会に諮ることです承された。



## 第24回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなど実習を主体とした研修会です。メタボリックシンドローム危険因子保持者などを対象とした運動指導等であり、アスリート対象ではありませんのでご注意ください。

尚、平成23年度より新たな講師陣を加え、1)喫煙や環境汚染および加齢による慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)の運動による改善効果の機序や運動処方、2)降圧剤など薬物治療受診者の運動指導の適否、配慮すべき事項など、3)機能性食品と運動療法併用によるメタボリックシンドローム危険因子改善効果など、4)体組成とくに内臓脂肪の意義およびその測定実習、などの内容を加えました。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会の会員でない方も参加できます。また、他の研修会を受講し資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

多数の方のご参加をお待ちしております。尚、実習を行う関係上、各年度の募集人数に制限がありますことをご確認ください。

平成24年12月1日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内秀樹 碓井外幸 鈴木政登 太田 真 勝村俊仁 中島幸則

### 1. 会 場

会場は東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室などです。

### 2. 日時および研修カリキュラム

#### (I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項については既に習得されていることを前程にさらに進んだ生理学(神経・筋、呼吸、循環、代謝など)や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。ここで学んだことを基盤として、(II)応用コースへと進みます。

平成25年

7月5日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝(水・電解質およびエネルギー代謝)
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環
18:00~	懇親会(会費3,000円、参加自由)

7月6日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方(肥満・糖尿病・高脂血症)
12:10~13:10	昼休み
13:10~17:00	救急救命実習(人体模型を用いた実習)

#### (II) 応用コース

このコースの講義では、有疾患者または薬物治療中の場合の運動適用の可否や運動指導の実際について学びます。実習では、自転車エルゴメータによる運動負荷試験を行い、それと関連した血液・尿検査結果データを参考に運動

処方を作成する。さらに、高齢者や喫煙習慣保持者の健康を脅かす慢性閉塞性呼吸器疾患を反映する呼吸機能検査、糖尿病性腎症等の腎機能異常の有無を知る尿検査、およびメタボリックシンドローム罹患の上流因子として重要な内臓脂肪蓄積状態を知る体脂肪測定法などを実習します。その他に、テーピングや筋力トレーニング実習なども行われます。

#### 8月2日(金)

9:00~10:30 高血圧およびその他の循環器疾患の運動処方  
 10:40~12:10 運動器疾患の運動処方  
 12:10~13:10 昼休み  
 13:10~17:00 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験、心電図記録、呼吸機能検査、尿検査、体組成測定実習）

#### 8月3日(土)

9:00~12:00 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し、実施させる）  
 12:00~13:00 昼休み  
 13:00~17:00 テーピングおよび筋力トレーニング実習

#### 8月4日(日)

10:00~12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので、ご了承下さい。

### 3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を取得することができます。

修了試験は平成25年8月4日(日)10:00~12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（最近8カ年400題）正解/解説付（2012年版）」（定価：2,000円+税）がありますので、ご利用下さい。

下記の“9. 申込書送付先および問い合わせ先”へお申込み下さい。

### 4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。

### 5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース、（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース（基礎コース、応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし、学生証の呈示が必要です。

### 6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し、日本体力医学会“健康科学アドバイザー”の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。定員は各コース40名です。



## 7. その他

健康運動指導士、実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

## 8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんのであらかじめご了承下さい。

## 9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-18 小石川アーバン4F  
 一般社団法人 学会支援機構内  
 日本体力医学会スポーツ医学研修会 係  
 電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012  
 E-mail：jspfsm@asas.or.jp

---

## 第24回日本体力医学会スポーツ医学研修会 仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。(該当する□にレ印をつけてください。)

第24回 基礎コース

第24回 応用コース

試 験

氏 名 \_\_\_\_\_

連絡先 〒 \_\_\_\_\_

TEL： \_\_\_\_\_ E-Mail： \_\_\_\_\_

## 平成25年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りましたが、平成25年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

### プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力および身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に向けて勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成25年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
  - 特定保健指導(メタボリックシンドローム対策)に関する基礎的研究
  - こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
  - スポーツ科学(体力科学・体力医学)に関する研究
- 多施設が共同研究を行うことにより、より優れた成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすることが必要である。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を共同で作成し、プロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査し、採択候補研究を選定する。なお、新規採用可能件数は1～2件である。
- 採択された研究の代表者は研究計画を体力科学に掲載して、研究協力者を募集することも可能である。その場合、研究協力者の人選は研究代表者と発起人に一任する。また、プロジェクト研究委員会が必要と認める場合には、他の研究者を指名して加えることもできる。

- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得ることとし、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成25年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出も可）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

### 研究計画書

- 研究代表者名(署名捺印してください)、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴（卒業大学または修了大学）と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴（卒業大学または修了大学）と年月日
- 研究課題
- 研究目的（200字以内）
- 研究期間（3年以内）
- 研究計画（200字以内）
- 研究方法（400字以内）
- 期待される研究成果（200字以内）
- 研究費の使途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を記載してください
- この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

提出先 田中喜代次

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長  
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1  
筑波大学体育系  
電話：029-853-2655 Fax：029-853-2986  
E-mail：tanaka@taiiku.tsukuba.ac.jp

## 法人化の移行に伴う定款改定に関するご意見（パブリックコメント） についてのお知らせ

平成24年9月15日に開催された日本体力医学会総会・評議員会でご案内いたしましたように、来年の総会を経て、当学会が法人格（一般社団法人）を得るべく準備を進めております。

司法書士をオブザーバーとする理事会・総務委員会において検討を重ねてきました。総会にてご案内しました法人化への定款改定案をHPにて平成25年2月1日から公開します。

皆様からのご意見（パブリックコメント）をいただき、必要な場合には、理事会の議を経て訂正する所存です。皆様からの忌憚ないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

ご意見は学会事務局メールアドレス：jspfsm@asas.or.jpまでメールでお寄せください。なお、今後の議論を進める都合で、平成25年4月30日までに送信下さいますようお願い申し上げます。

**日本体力医学会 国際交流事業**  
**2013年米国スポーツ医学会 (American College of Sports Medicine: ACSM)**  
**参加助成制度 募集要項**

日本体力医学会会員各位

1. 2013年5月28日～6月1日に米国インディアナポリスにおいて第60回ACSMが開催されます。ACSMでは例年多くの日本体力医学会会員が研究成果を報告しています。日本体力医学会では国際交流事業の一環として第60回ACSMにおいて特に優れた研究成果の発表を行う大学院生2名(口頭発表1名, ポスター発表1名)および若手研究者1名(口頭発表)に対して参加を支援する助成金を贈呈することになりました。本会会員若手研究者および大学院生の積極的な応募を期待します。
2. 助成金の応募資格は以下の要件を満たすこととします。
  - (ア) 2013年4月の時点での日本国内の大学院の在籍者(修士(前期)課程・博士(後期)課程・研究生を含む), あるいは日本国内の研究機関・教育機関に所属する35才未満の若手研究者。
  - (イ) 大学院生: 第60回ACSMに口頭発表あるいはポスター発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
  - (ウ) 若手研究者: 第60回ACSMに口頭発表の筆頭演者として演題が採択された日本体力医学会会員。
3. 助成金制度に応募する会員は, 日本体力医学会会員番号, 生年月日, 氏名, 提出した演題登録内容(タイトル・共同演者名・所属, 抄録本文(いずれも英文)),

及び演題応募者に通知される演題採択結果, さらに大学院在籍者は学生証の写しと指導教員の推薦状(A4版1枚程度・書式自由)を2013年2月1日(金)午後5時までに電子メール(推薦状や学生証の写しも含めてできるだけPDFファイルでお送りください)で渉外委員会委員永富良一(nagatomi@med.tohoku.ac.jp)宛にお送りください。

4. 採択の可否は, 渉外委員会が組織する推薦委員会で審議を行い2013年3月中旬頃までに決定し, 本人に通知するとともに, 本ホームページ上で発表者氏名と演題名を公表します。
5. 採択者には日本体力医学会より参加支援助成金として若手研究者1名に120,000円を, 大学院生2名にそれぞれ100,000円(口頭発表), 80,000円(ポスター発表)を支給します。
6. 不明な点, 質問は渉外委員永富までメールでお知らせください。
7. 応募者が発表を行わない場合には助成を取り消すことがあります。なお採択者には2013年6月中に報告書を提出していただきます。報告書は体力科学に掲載されることとなります。

平成24年11月30日

日本体力医学会渉外委員会

**日本体力医学会 国際交流事業**  
**2013年ヨーロッパスポーツ科学会議 (ECSS) / 日本体力医学会 (JSPFSM)**  
**合同シンポジウム参加シンポジスト募集要項**

日本体力医学会会員各位

1. 2013年6月26日～29日にスペイン・バルセロナにおいて開催される第18回ECSSにおいて開催される表記シンポジウムのシンポジスト2名を募集いたします。本シンポジウムは, ECSSとJSPFSMの学術交流をはかる重要なシンポジウムです。本会会員若手研究者の積極的な参加を期待します。今回のシンポジウムは“Confronting super aging society - Japanese and European”が指定テーマとなります。
2. シンポジストとして参加を希望する会員は, 発表者氏名, 希望発表演題のタイトル・共同演者名・所属(いずれも英文), 抄録(英文でスペースを含めて本文3000字以内), 過去3年間の業績リスト(Peer Review誌に発表された原著論文3件以内; 和文も可)をMS-Wordで作成し, 電子メールで渉外委員会委員永富良一(nagatomi@med.tohoku.ac.jp)までお送りください。なお, 演題は指定テーマにマッチした内容としてください。採択された抄録原稿はそのままECSSのAbstractとして掲載されますので, 英文の校正を行ったのちに提出してください。Abstract書式についてはECSS-Brugesのabstract submission guidelinesに従ってください。なおECSSの一般演題受付は2012年

12月15日(土)から開始され, 締め切りは2013年2月15日(金)になります。

<http://www.ecss-congress.eu/2013//13/index.php/abstract-submission>

3. 採択の可否は, 渉外委員会が組織する推薦委員会で審議を行い決定し, 2013年1月末日までに本人に通知し, 本ホームページ上で公開します。
4. なお応募者が定員を満たさない場合でも, 発表内容が学術的に不十分あるいは指定テーマに適合しないと判断された場合には, 不採択になることがあります。この場合は, 推薦委員会より参加シンポジストの指名推薦を行うこととします。
5. シンポジストとして採択された会員はECSSからの招待の条件として学会登録費と宿泊費が免除されます。また日本体力医学会より学術奨励賞として150,000円が支給されます。なお採択者には2013年7月中に報告書を提出していただきます。報告書は体力科学に掲載されることとなります。
6. 不明な点, 質問は渉外委員永富までメールでお知らせください。

平成24年11月30日

日本体力医学会渉外委員会

## 第17回日本体力医学会東海地方会学術集会開催および演題申込みのご案内

日 時：2013年3月16日(土) 午前9時～午後5時  
 会 場：愛知学院大学 楠元キャンパス 歯学部棟1階  
 当番幹事：齊藤 満 (愛知学院大学心身科学部教授)  
 参加費：一般2,000円, 学生1,000円(当日徴収致します)  
 プログラム：大会テーマ『新しい健康づくり支援を目指して』  
 ・一般演題発表  
 ・特別講演  
 「身体活動量の増減や加齢が骨格筋量と筋内脂肪に及ぼす影響」  
 秋間 広 (名古屋大学総合保健体育科学センター准教授)  
 ・シンポジウム『地域の健康づくり・介護予防を考える』  
 コーディネーター：島岡 清 (東海学園大学スポーツ健康科学部教授)  
**【一般演題申し込み要領】**  
 一般演題はE-mailでのみ受け付けます。演者と共同研究者の氏名、所属、抄録(600字以内)をWordファイ

ルで作成し、下記のメールアドレス宛に添付し、送付してください。メール本文にお名前、連絡先住所と電話番号をご記入下さい。受付確認メールが返信されない場合は事務局までご連絡下さい。なお、一般演題から2題を選出し、「奨励賞」を授与致します。

**演題申し込み締め切り日：2013年1月25日(金)**

送付先：agusmed@dpc.agu.ac.jp (担当 水藤弘史)  
 連絡先：〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12  
 愛知学院大学心身科学部健康科学科  
 第17回日本体力医学会東海地方会学術集会事務局  
 担当 水藤弘史  
 TEL：0561-73-1111 FAX：0561-73-1142  
 E-mail：agusmed@dpc.agu.ac.jp

## 第157回日本体力医学会関東地方会および一般研究発表演題募集のご案内

開催日：平成25年3月30日(土) 13:00より  
 会 場：日本体育大学世田谷キャンパス  
 (東京都世田谷区深沢7-7-1)  
 最寄り駅：田園都市線桜新町駅より徒歩15分  
 (<http://www.nittai.ac.jp/access/tokyo.html>)  
 当番幹事：中里浩一 (日本体育大学・運動生理学)  
 TEL：03-5706-0821 (直通)  
 E-mail：nakazato@nittai.ac.jp

### 【予定プログラム】

1. 一般研究発表 (13:00～14:20)  
 発表時間：1演題13分(発表10分, 質疑応答3分)  
 6演題程度  
 発表形式：口頭発表
2. シンポジウム (14:30～16:10)  
 テーマ『筋肥大と筋損傷の基礎研究』  
 座長：町田修一 (東海大学体育学部生涯スポーツ学科)  
 1) 筋肥大の分子メカニズム  
 武政 徹 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)  
 2) 伸張性収縮による筋損傷と細胞内カルシウムイオン  
 狩野 豊 (電気通信大学大学院先進理工学研究科)  
 3) 伸張性収縮が神経機能欠損を引き起こす可能性  
 中里浩一 (日本体育大学大学院体育科学研究科)  
 総合討論10分  
 <休憩>
3. 特別講演 (16:30～18:00)

(日本体育大学との共催、地域公開講座として一般公開されます)

タイトル『スポーツ現場における筋力トレーニングと筋損傷』

司会：中里浩一 (日本体育大学大学院体育科学研究科)

- 1) 体にやさしい筋力トレーニングとは？  
 -メカニカルストレス、筋損傷、遺伝子多型などから考える-  
 石井直方 (東京大学大学院総合文化研究科)
- 2) スポーツ現場における筋損傷  
 奥脇 透 (国立スポーツ科学センター)

会終了後に懇親会を行う予定です。

### 【一般演題の申込要領】

演題題目、発表者名および共同演者名とその所属、口演要旨(400字程度)、連絡先(氏名、所属先、郵便番号、住所、電話およびファクス番号、E-mailアドレス)をワードにて作成し、添付ファイルにて下記のE-mailアドレスまでお送りください。

演題を申し込みいただいた方には、発表用データの作成・持込に関する詳細につきまして、あらためてご連絡いたします。

**※一般演題の〆切：平成25年1月8日(火)**

問合せ・送信先：中里浩一 (日本体育大学)  
 E-mail: nakazato@nittai.ac.jp



# 日本医学会だより

JAMS News

2012年10月 No. 48  
日本医学会

## ◆第143回日本医学会シンポジウム

「がんの一次予防と二次予防」をテーマに、12月20日(木)13:00~17:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、津金昌一郎, 祖父江友孝, 浜島信之, 斎藤 博の各氏。参加申込みは郵便はがき, FAX, 本会 HP (<http://jams.med.or.jp/>) にて受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会 HP に掲載中。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月29日(水)に開催し、平成24年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞13, 奨励賞40を審査した。

選考の結果、11月1日(木)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は4名, 奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

### 〈日本医師会医学賞〉

- ・幹細胞システムにおける細胞分化機構の解明/仲野 徹 (阪大・病理学)
- ・魚食により摂取される環境汚染物質の健康影響とリスク評価に関する研究/佐藤 洋(内閣府食品安全委員会)
- ・日本人の虚血性心疾患に関する基礎的・臨床的研究/下川宏明 (東北大・循環器内科学)
- ・ABO血液型不適合腎移植への挑戦—免疫学的禁忌の克服と臨床応用の普及/高橋公太(新

潟大・腎泌尿器病態学)

### 〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・新規細胞接着分子システムが動脈硬化を制御する分子機構/扇田久和(滋賀医大・分子病態生化学)
- ・腸管上皮培養技術を応用した全腸管組織体外構築の試み/中村哲也(医歯大・消化管先端治療学)
- ・ミトコンドリアダイナミクスによるエネルギー代謝調節機構の解明からナノ治療へ/野村政壽 (九大・内分泌代謝・糖尿病内科学)
- ・膵臓癌の早期診断法の開発に関する研究/谷内田真一 (国立がん研究センター研究所)
- ・脳磁計による神経義手制御とALS患者への適応/柳澤琢史 (阪大・脳神経外科学)
- ・社会格差と健康～行動経済学的アプローチによるメカニズム解明/橋本英樹(東大・公衆衛生学)
- ・東日本大震災被災地における保健医療従事者に対するこころのケア及び自殺対策の教育システムの構築を目的とした地域介入研究/大塚耕太郎 (岩医大・神経精神科学)
- ・トランスレーショナルリサーチ実践による新しい急性心筋梗塞治療法の開発/南野哲男(阪大・循環器内科学)
- ・肝細胞癌の発症リスクに寄与するバイオマーカーの同定と有用性の検証/大石和佳(放射線影響研究所)
- ・日本人糖尿病患者の特徴と病態に関する臨床疫学的検討/曾根博仁 (新潟大・血液・内分

泌・代謝内科学)

- ・思春期注意欠如多動性障害へのペアレントトレーニングは愛着の神経基盤を変化させるか/石井礼花(東大・精神神経科学)
- ・急性中耳炎の難治化の病態解明と粘膜ワクチンによる感染予防に関する研究/保富宗城(和医大・耳鼻咽喉科学)
- ・発癌性ウイルス特異的免疫誘導を介した子宮頸癌に対する予防的・治療的薬剤の開発/川名 敬(東大・産婦人科学)
- ・過活動膀胱におけるKIT-SCFシグナル伝達系からみた病態解明と臨床応用/窪田泰江(名古屋市大・腎・泌尿器科学)
- ・免疫・アレルギー疾患の発症における皮膚の役割の解明/椛島健治(京大・皮膚科学)

### ◆日本医学会あり方委員会

第11回委員会を平成24年5月29日(火)、第12回委員会を7月4日(水)、第13回委員会を9月13日(木)にそれぞれ開催した。「日本医学会が目指すもの」、「法人化について」等が主な議題であった。

金澤一郎委員長の下、池田康夫委員、岡井 崇委員、實成文彦委員、富野康日己委員、中村耕三委員の6名で構成されている。

### ◆日本医学会法人化組織委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、平成23年度に新設された委員会で、本年度より組織委員会に名称を変更した。委員は池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、富野康日己、麦島秀雄、里見 進、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。本年度第1回委員会は8月15日(水)に開催された。

### ◆日本医学雑誌編集者会議

「医学雑誌のオープンアクセス」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第5回シンポジウムを

北村 聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月21日(水)13:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「『医学雑誌編集のガイドライン(案)』の作成」、「オープンアクセスとパブリックアクセス」、「論文の電子化(PubMed Centralに準じたXMLファイルの作成)、掲載論文へのDOIの付与、ジャパンリンクセンターの開始」、「CrossCheckシステムの導入(事例報告1、事例報告2)」、「日本発の臨床論文の動向」の講演が行われる予定。

### ◆日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究における産学連携の透明化とCOIマネージメント」をシンポジウムテーマとした第3回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月22日(木)13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は本会HPにて受付中。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「産学連携推進による医学研究とCOIマネージメントの意義」、「日本医学会分科会におけるCOIマネージメントの現状と問題点」、「臨床医学研究とCOIマネージメント」、「製薬企業における『企業活動と医療機関等との関係の透明性ガイドライン』の実施状況について」、「医学研究にかかる産学連携の透明性：社会からの視点の在り方」、「COIマネージメントにおける具体的な問題点と改善に向けた対応策について」の講演が行われる予定。

### ◆医学用語管理委員会

6月28日(木)に第3回委員会を開催した。今後の予定としては平成24年度日本医学会分科会用語委員会を12月4日(火)15:00~17:00に日本医師会小講堂で開催する。

### ◆JapanCDC(仮称)創設に関する委員会

10月12日(金)に委員会を開催予定。

## 編 集 後 記

“体力科学”第61巻6号をお届け致します。本号には第67回大会抄録773編、英文誌（JPFMS）第1巻第4号の抄録22編、国際交流事業（ACSM）およびECSS合同シンポジウム参加者からの報告などが掲載されております。

さて、本誌はこれまでに第61巻6号を数えるに至りました。本誌はわが国唯一の体育・運動・スポーツ等を扱った医学雑誌であります。本学会は日本医学会第39分科会に属していますが、本編集委員会では医学雑誌編集や出版に関わる最新の世界標準を積極的に取り入れ、“体力科学投稿規定”をその都度改訂してきました。また、第65回大会にて“体力医学研究の倫理と法”、第66回大会では“健康・スポーツ科学および教育分野における人対象の調査・研究倫理”と題する公開シンポジウムを開催しました。

私自身は1986年より本誌の編集業務に関わり、2009年より編集委員長として携わっております。最近では本誌がJ-STAGE3において創刊号よりすべて公開され、2010年4月からはオンライン投稿審査システムの運用が開始されました。英文誌のオンライン投稿審査システムについては2013年から運用開始を目指しています。2012年3月にはWHO西太平洋地域医学情報データベース（WPRIM）に収載を登録しました。現在、PubMed掲載の申請中であり、インパクトファクター（IF）取得のため、Web of Scienceへの申請も間もなく実施いたします。

最近の大きな事業としては、本年5月にはJPFMSを発売致しました。本学会員数は5,200名程度であり、両機関誌を同時に発行することは経済的に困難でありましたが、現在では両誌ともにJ-STAGEを介して閲覧できるようになりました。このような背景により、両誌を必要としない会員が多くなりつつあります。このような状況に対

して、両誌を希望しない会員には配布しないことが本年9月に開催された総会で決定されました。この決定により、諸経費が節減され、両機関誌の発刊が可能になりましたが、まだ経済的には厳しい状況にありますので、今後とも可及的速やかな節減に努めたいと思います。

本学会では和文誌と英文誌に掲載された研究成果を広く公開し、人類の健康と体力維持・向上に寄与することが目標の1つであります。これらの学術誌の今後の課題については、和気秀文委員による本編集後記（第61巻第5号）にその意見が開陳されています。現在の本学会の会員数がしばらく続くと仮定しますと、両誌を発刊すれば投稿数が増加しない限り何れかの機関誌に論文の掲載が偏る可能性もあります。本学会員は、体力医学関連領域の研究者や大学院生と、主に現場で運動・スポーツ、栄養指導や治療などに携わっている会員に大別されます。英文誌発刊の目的の1つは、わが国のスポーツ医学研究成果を広く世界に普及させ、その価値を高めることにあります。一方、現場において運動や栄養指導および治療などに携わっている方々にその研究成果を具体的に提示し、実用化して頂くことも重要なことであります。当面は国の内外からの投稿状況を見極め、自ずと和文誌、英文誌の棲み分けがなされるものと思われま。いずれにしても毎年開催される本学会大会において多くの研究が発表されていますが、そのうち約10%程度が和文誌または英文誌に投稿されている現状があります。この点を十分理解された上で投稿数が増えることを期待していますので、本会員の皆様方が日頃の研究成果を本学会の両機関誌に積極的にご投稿下さるよう切にお願い申し上げます。

鈴木政登

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.61, No.6

#### 体 力 科 学 第 61 巻 第 6 号

平成 24 年 11 月 25 日 印 刷

平成 24 年 12 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者	鈴 木 政 登
発 行 所	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会
編 集 事 務 局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局 TEL・FAX(共通) 0235-22-3120 E-mail: hj-tairyoku@turuiin.co.jp
印 刷 所	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社